

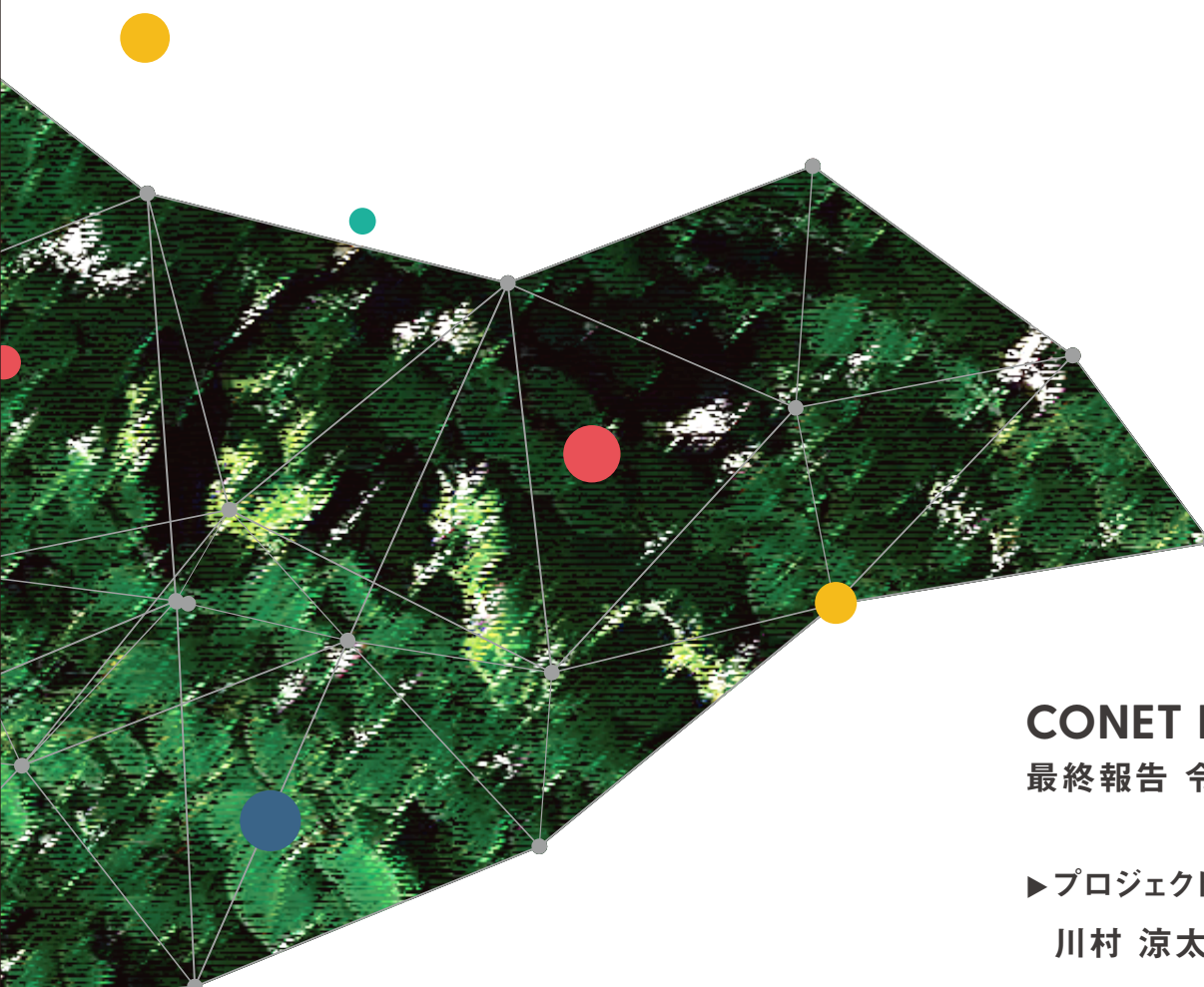
CONET PROJECT

コネットプロジェクト



令和6年度日本財団通常助成事業

ケアリーバーのつながりと
ピアサポートの構築事業報告書



CONET PROJECT 最終報告 令和7年3月

▶プロジェクトメンバー

川村 涼太郎

内田 理美

後藤 拓也

特定非営利活動法人おおい子ども支援ネット

Voices

CONETメンバーのメッセージ

～3年間の活動を振り返って～

かたっ苦しくない 親しみやすいつながり

この3年間の振り返ってみると、「かたっ苦しくない親しみやすいつながり」が増え誰かの役に立つことができ、CONETを求めてもらえるような活動ができた3年間だと感じています。様々な場所で若者と支援者と大人と行政と民間などと、しっかりと、しかしできるだけ「かたっ苦しくない親しみやすいつながり」を意識し、私たちができるかぎりのことをさせていただいたと思います。それにより、顔を合わせることがあれば気軽に笑顔で話しかけていただい、「またよろしく」「助かっています」「CONETのおかげ」とありがたいお言葉をいただくことが多くなりました。

私はしっかりするところはしっかりしつつ、だけど親しみやすい関係が大事だと思っています。「相談より雑談」と同じようにお互いの壁を低くしていかないと、過去の経験により大人を信用できない若者は警戒し心のドアを開けてはくれません。それは大人でもそうだと思っています。話しやすい話し方や空気感が、若者をサポートしていく支援者同士の協力には必要だと活動を通し強く感じています。

プロジェクトが始まった時から今現在に至るまでに、つながってくれた若者たちの日々が少しかもしれませんが豊かになっていってくれていると、若者と身近に接しているがゆえに感じられうれしく思います。ある若者は相談先が大分ではCONETしかない状況でしたが、今はCONETで出会った若者、様々な民間や行政機関、友人などとつながりを持てるようになり、一つずつ課題を乗り越えています。このように他の若者も相談先の選択肢が広がり一人で抱え込まないで話してくれることが多くなりました。

CONETのこれまでの成果は当事者であり同じ空気間(ノリ)、親しみを持って接することができる私たちにしかできなかったことだと自負しています。「相談所には相談に行かない」これはCONETでつながった当事者間で共通して出る言葉です。大人が他人行儀でマニュアルのような接し方をする相談機関には困っていても相談には行かない・行きづらいという意味です。CONETはこの3年間でそこを少しでも打ち壊せる存在になれたと思います。そのような存在になれたことは日本財団様、養育者、若者をはじめ多くの方々からの支えがあったからです。私自身このプロジェクトのおかげで当事者として救われることがたくさんあり、それをどのようなかたちであれ若者に還元してあげられたらと思います。

支えてくださったみなさま、この3年間ほんとうにありがとうございました。



内田 理美
(うちー)

CONETメンバーのメッセージ

～3年間の活動を振り返って～

当事者とともに、 社会的養育の未来をつくる

CONET PROJECTの軌跡をひとことで振り返ると、それは「可能性への挑戦」であったと思います。「大分県に、社会的養育環境を巣立った若者たちが相互につながる仕組みができてほしい」——これは児童養護施設を卒園した後の私が願っていた空想であり、振り返れば私自身がCONETでトライしてきた一つの命題でした。大分に完璧で究極の「仕組み」はまだまだできあがっていませんが、CONETなりに「ケアリーバーのつながりとピアサポートの構築」をめざして試行錯誤してきたこの3年間の足跡が、これからの大分の進化にとって大きなヒントになることを願っているところです。

あらためて、この節目をきっかけとしてCONETの強みは何だったかを考えてみました。その一つは、当事者同士の関係性づくりやピアサポートのポテンシャルだと思っています。お互いが当事者だから信頼関係を築きやすかったり話しやすかったりすることは間違いなくあり、当事者相互のエンパワメントの推進に大きな効果があると実感してきました。CONETの強みのもう一つは、メタ的に言うと「当事者チームがアクション主体であることのインパクトの大きさ」だと思います。あくまで特に大分県の話になりますが、CONETというモデルの誕生、その活動の蓄積は、(私がこのように言うのはおこがましいかもしれませんが)社会的養育の業界内に一定の関心や斬新な気づきを与えたのではないのでしょうか。児童養護施設、里親・ファミリーホーム、児童相談所など、関係する方々がCONETの話に耳を傾けてくださり、こどもや若者をCONETにつなげてくれたり、職員研修にCONETの実践報告を活用してくれたりしました。さらに言えば、このインパクトは県を越えて各地の様々な方に届くこともありました。他地域からCONETを見学に来ていただくこともあれば、CONETが熊本や旭川や東京など他地域に飛び出していくこともありました。

ケアリーバーやそれに近い経験のある若者たちが、社会的養育の担い手として、あるいは希望の社会的養育をともにつくっていくパートナーシップを結んで、その体系の中に何らかのかたちで参画できることは、当事者性の相互作用が良い方向に働く側面があるという意味で大きな価値や意義があり、そうしたコミットはこれからの支援論や社会資源としての新たな可能性を秘めていることをCONETの実践を通して切に感じてきました(他方、そうしたコミットを推進していくには当然のことながら周囲の支え＝当事者理解、社会参画機会の提供、フォローアップが不可欠です)。私たちが残してきたCONETという小さな歴史が、社会的養育やこども・若者支援に携わる多くの方々の目に触れ、それがやがて当事者と支援者にとって大きな実りになりますように。



川村 涼太郎
(りょたろ)

若者たちの相互交流①

お祝い行事

クリスマス会

CONETでは初のクリスマス会を開催しました。社会的養護経験者等にとって家族行事系は、家族と過ごしている周りの人たちと自分を比べてしまい孤独感が強くなるイベントだともいえます。

この日のSTATIONでは、ケーキやピザを楽しみながら、若者同士で近況トークなどの雑談をして過ごし、笑顔の絶えないクリスマス会ができました。



成人式

振袖を着ることをあきらめていた若者に、成人式のお手伝いをするもありました。振袖を着るのにいろいろな費用が必要になる一方で、頼れるつながりがないため「助けて」と言えずにあきらめていた若者でした。

あきらめる彼女に何かできないかと考え良い方法を一緒に探していると、人とのつながりのおかげで振袖を貸してもらえらることとなりました。コストを抑えられる美容院や小物類、前撮りスタジオも一緒に探し、結果的にご本人は素敵な成人式を迎えられました。

少し周りを見てみると、手を貸してくれる人がた数多くいることに気づきました。困り事を発信することが難しい状況にある若者が、遠慮や辛抱なく声を上げられる環境やサポート体制が充実していったらいいとあらためて感じました。



QR読み込み

Instagramで活動の様子をチェック!



若者たちの相互交流②

1人ではむずかしくても

1人ではむずかしくても、誰かのサポートが少しでもあれば解決できることは数多くある——CONETではそのような少しのサポートも大事にしてきました。家では課題が進まない、わからない。子育てが大変で入園手続きができない。行政手続きに必要な書類の書き方がわからない……。どれほど小さな困り事にも寄り添い、ともに考え挑戦してきました。

課題は教科書を探すことから始め、一緒に考えて解き進めました。ともに学習に向き合う過程の中で、誰かに褒められる体験や、できることを少しずつ積み重ねていく体験は、若者の自己肯定感や自信につながっていると感じます。

妊娠前からCONETと関わりのある若者は、子育てや家事で手が離せず、子どもの入園手続きに必要な書類や準備物（おもちゃ、衣服）の記名などができない状況でした。STATIONを活用してご本人が手続きをしている間、CONETメンバーがそばで子どもを見守り、安心して手続きを済ませられました。



リフレッシュ散歩

若者の希望で一緒に散歩に行くこともあります。仕事、人間関係、SNS、家族、気持ちのことなどで悩み、そのようなしからみから「いったん離れたい」と思う若者は多くいます。そのようなとき、散歩に出かけ、日ごろ意識していなかった景色に触れることで、暗かった若者の表情も気づけば笑みに変わっています。



こどもたちとのかかわり①

未来のためのつながりを

児童養護施設を訪問し、中学生Aくんと交流する機会がありました。きっかけは、施設の先生がこどもたちにCONETのことを教えてくださっており、Aくんが、CONETメンバーに会ってみたいと希望を出してくれたそうです。Aくんの希望で、トランプマジックを非常に楽しんでもらいました。また、Aくんの好きなアニメや漫画、ゲームの話題で盛り上がりました。

STATIONに児童養護施設の高校生Bくんが職員さんと一緒に来てくれたこともありました。高校卒業後の進路やその先の人生プランについて、Bくんは施設と話をしながら、真剣に考えているようでした。そのようなBくんの将来に対する気持ちは数か月前から変わったとことで、やはり特に高校生は常に気持ちが揺れ動くものだなあとあらためて感じました。Bくん自身の思いも、職員さんたちの思いもたっぷり話してくれました。CONETメンバーからも、措置解除後、社会に出てからのいろいろな経験や思いを伝えました。Bくんにとって、少しでも将来を考えるヒントになればいいと思います。



一緒にテイクアウトチャレンジ

児童養護施設の若者と外を歩き、食べ物をテイクアウトしてSTATIONで食べる日もありました。クーポンアプリの存在を教えたり、共通の趣味の歩数系ゲームを進めたり、お互いの食べ物をシェアしたり。普段、施設では内気で気持ちをため込みやすいというご本人の息抜きになってくれていたといいと思います。



こどもたちとのかかわり②

わいわい交流会

大分県では、施設のこどもたちの自立支援としてソーシャルスキルトレーニングが中心に行われていますが、まずはこどもたちがつながりをつくれること、コミュニケーションに慣れること、頼ってもいい周囲の存在がいるのを知ってもらうことを重視した相互交流が活発に行われてほしいとCONETは思いました。そこで昨年度も交流会づくりで協働した児童養護施設の職業指導員・自立支援担当職員さんたちとともに、県内全施設の児童対象のイベント「わいわい交流会」を令和6年7月に開催しました。

この日はボッチャとモルックというユニバーサルスポーツを企画し、幼児～高校生までの幅広い層のこどもたちが50人以上も参加してくれました。暑い夏の体育館の中、みんな汗をかきながら楽しんでくれました。休憩中にモルックで遊ぶこどもや、会場の設営や片付けを手伝ってくれるこどももいました。交流会の終わり際には、「あ～楽しかった～」「うちの施設にもボッチャとモルックが欲しい」という声もありました。



「わいわい交流会」第2弾も開催!

令和6年11月にも交流会を開催し、児童養護施設の高校生たちと神社参拝、お城・美術展見学をしました。道中、最近の出来事や恋バナトークをしたり、池の鯉や鳥、亀を見たりして盛り上がりました。最後はこの日の撮影写真をスクリーンに映し、みんなで思い出を振り返りました。楽しそうにスクリーンを見るこどもたちの姿と、「楽しかった」「また参加したい」というアンケート内容を見て、企画して良かったと心から思いました。



出張講演 in 旭川ーあさひかわー

CONET×旭川コラボ

令和6年9月には、北海道旭川市でCONETの活動報告の講演をしてきました。きっかけは、令和5年のNPO法人そーさぽ旭川さんとのオンライン研修での出会いで、その時に「次はいつか北海道に来てください」と言っていました。それが1年後になって、「そーさぽ旭川だけでなく、北海道のたくさんの方にCONETさんのお話を聞いてもらいたい」と招待いただきました。驚きと感謝の気持ちでいっぱいでした。

旭川を訪問すると、講演当日は会場に60名近くの方がお越しくださいました。CONETの活動内容や当事者の思いなどをたっぷり紹介した後は、旭川でどのようなことができるのかについて自由にグループワークを行ってもらいました。社会的養護関係者だけでなく、行政機関や障害福祉サービス事業所、民生委員や保護司など多様な分野の方々も参加してくださっており、「当事者だからこその活動だね。救われる人も多いと思う。本当に素晴らしい活動」「旭川でもできたらいいな」というありがたい感想もいただきました。



北海道新聞掲載

旭川で講演をしたその翌日!令和6年9月7日(土)の北海道新聞朝刊にCONETの講演のことが掲載されました!



誰も知らないお葬式の世界

若者×葬儀業界コラボ

葬祭事業などを行っている株式会社ファインさんとCONETが堅苦しくない葬儀体験イベント「誰も知らないお葬式の世界」を共同開催しました(令和6年12月)。お葬式のマナーや作法の情報共有、お坊さんのリアルなお経(簡易Ver.)、自分自身に書く弔辞、入棺体験などを若者たちが一緒に体験しました。

社会的養護経験者の会話の中で「お葬式に呼ばれる機会がそもそもない(家族・親族がいない)」「参列するにしても作法を教えてくれる存在が身近にいない」というお葬式に関する話が出ました。それをつなぐのあったファインさんに共有した際、「社会的養護経験の有無や世代にかかわらず、葬儀の経験や知識がない人は意外と多いから悲観的にならなくていい。なんなら若者で集まって模擬葬儀を体験してみようか」と言っていたことが開催に至ったきっかけです。こうした趣旨もあり、この日はケアリーバーに限らず、地域の若者も数多く参加してくれました。

自分の欲しい言葉を弔辞に書き、入棺している間にそれを読んでもらう。目を閉じてその言葉に耳を傾ける。そうした一連の体験には気持ちのこもるものがありました。ユーモアあふれる弔辞もあり、棺から出る時に「ふふっ」と笑みがこぼれる方や、労いの弔辞を読んでもらい涙をぬぐう方など様々な反応が見られました。参加してくれた若者からも「楽しかった」「なんかすっきりした」「不思議な気持ち」と様々な感想が聴けました。CONETメンバーにとっても、すべての体験が初めてで貴重な時間となりました。



施設職員・児童相談所職員研修

「当事者の声」を支援者へ

令和6年7月に、児童養護施設や児童家庭支援センターなどで働く1年目の職員さんたちの「新任職員研修」が行われ、その講師にCONETも呼んでいただきました。研修ではCONETの活動内容や当事者の声を紹介しました。研修の中で、新任職員がこどもたちと今後関わっていくうえでの不安や悩み、それらについてどのように考えたり対応したりすれば良いかをグループで話しあってもらいました。社会的養護のこどもたちに向き合っていく職員の方々が、真剣にケアリーバーの言葉を聴き、様々な不安や今後の心構えなどについて深く考えてくれたことは、非常にうれしかったです。

同年11月には大分県児童相談所職員研修に講師として招いてもらい、私たちケアリーバーの視点で措置当時の思いを話しました(例えば、希望に沿えなかったとしても説明をきちんとしてくれた、一時保護所で衣食住を取り戻せた、一時保護所のルールが厳しかったなど)。当事者と支援者がお互いの気持ちを伝えあう機会があることは非常に大切だとあらためて思いました。



こどもも大人も、まずは互いを知ることから

児相研修にて。あるケースワーカーさんは、施設や里親家庭のこどもに「ずかずか」と頻繁に会いに行ってもいいのかと葛藤を話してくれました。私たちが入所児童だった時、児相とは何なのか、ケースワーカーがどのような人なのか、よくわからなかったという思いもあります。だからこそ、大人から積極的にこどもに歩み寄っていくことも大事だと感じています。



つながり、広がる

たくさんの出会いに感謝

ケアリーバーや児童以外にも、児童養護施設や行政の職員、支援団体や民間企業、報道関係者、大学の先生・学生など様々な方とのつながりができました。

令和6年春に大分県福祉保健部こども・家庭支援課の方々がいらっしゃいました。4月に課長さんが代わられたため、そのご挨拶で来てくださいました。CONETの活動がスタートして以降、日頃より課のみなさんから応援していただけているのが本当にありがたいです。

同年5月には、一般社団法人Masterpiece、認定NPO法人かものはしプロジェクトの方々、総勢8名がSTATIONにお越しくださいました。CONETも含めそれぞれの活動で大事にしていることやセルフメンタルケアの仕方、今後の展望、社会的養護のこどもが増えないために必要なことは何か、どこからが「おとな」なのか、といった深いお話ができました。お互いに話に熱が入り、非常に良いディスカッションができました。



施設心理士さんとの学びあい

児童養護施設等の心理士さんたちが来てくださったこともあります。インケアからリビング・アフターケアにかかる心理支援のあり方、心理士のかかわり方、退所したこども・若者の実態などについて議論をしたり、施設心理士の連絡会にCONETメンバーも招いてもらい、心理士さんたちの研修に当事者視点で参加させてもらったりと、交流の機会をつくっていただきました。



かかわった人の数（集計）

※延べ数	CONETがかかわった人 (N)	かかわった ケアリーバー (A/N)	STATIONに 来所した人 (B/N)	来所した ケアリーバー (AかつB/N)
R4年度	165	31	46	19
R5年度	696	95	173	69
R6年度 (4/1~1/31)	498	215	287	182
累計	1,359 (100%)	341 (25.1%)	506 (37.2%)	270 (19.9%)

★かかわったケアリーバーや若者のほとんどは、10代後半～20代の年齢層でした。

★ケアリーバー以外の人…施設職員・児童、児相職員・行政機関、大学の先生・学生、民間企業・団体、報道関係者 等

CONET利用者の声

ケアリーバー

楽しい。相談にも乗ってもらえるし、ただただ雑談もできる。暇つぶしにぴったり。ふらっと立ち寄れるチープさがいい。

ケアリーバー

(ケアリーバー以外の人とは) 普段はこんな話はしませんが、お互いわかっていることなので気楽です。

一時保護経験者

家に居場所がなくて…ここは家みたい。気楽に来れるし、もう1つ居場所ができたみたいでうれしかったです。

施設の高校生

同じように施設で育った人と話すことがあまりなかったので、(社会に出てからの経験など) いろんな話を聞いてよかったです。

謝辞 希望のタネ

「ケアリーバーが求める支援と支援機関にある文化には大きなズレがあるんじゃない?」「そもそも相談窓口には行かない、行きたくない若者にどう支援を届ける?」「支援機関が出会う時。かなり深刻な状況になっていることがほとんど。もっと早く頼ることのできるシクミを検討すべきじゃない?」

私たちが若者たちと話し始めた令和2年。コロナ禍の真ただ中で、なんとなく重い空気が社会を包んでいました。これまであたりまえだった暮らしがあたりまえではなくなり、孤独や孤立の課題が顕在化され、人と人のつながりがあらためて大切なことを強く感じた頃でした。ある若者の「児童養護施設を出た後、私たちのつながりはとても薄くなる。ケアリーバーのつながりをつくりたい」そのような声に後押しをいただき、このプロジェクトはスタートしました。

「若者たち(ケアリーバー)が描くつながりのデザイン」——言葉にすると美しいのですが、現実居場所をスタートするとなると、大きな課題や不安もありました。しかし、3年間を終えた今、北海道から沖縄まで、多くの方々に関心を持っていただき、こどもから大人まで、多様な方々がここに訪れてくれたことを振り返れば、この活動の「価値」はしっかりと確認することができたと感じています。

・1年目。手探り状態のスタートでしたが、3名の若者が中心となってこの活動に参加してくれました。情報の発信や、日々の取り組みに試行錯誤しながら、「相談所に相談は来ない!」という名言が!ただ、3名のうち1名の若者が無事就職決定!運営としては1名減となる2年目に。寂しい……。

・2年目。2名になった若者メンバーでしたが、ますます精力的な活動を展開してくれました。Instagramの登録者も増え始め、県外からも訪問してくれる方々が増えました。地元大分県でも行政関係者や社会的養護にかかわる方々の研修等にも呼んでいただくようになりました。CONETの社会的認知が大きく拡大していきました。

・3年目。いよいよプロジェクトとしては最終年度に。居場所に訪れる若者の数も増加!それぞれがそれぞれの想いを持って参加してくれる、まさしく「相談より雑談」という彼らの言葉がカタチになってきました。その中で困難が大きい若者は自然なかたちで専門の相談援助につながる——そのような流れができています。

CONET(CONNECT&NETWORK)プロジェクトは、若者たちの相互扶助・相互理解をデザインしていくための活動でした。親や家族を頼れない、行政窓口や専門家への相談には抵抗がある、そもそもあまり人を信用できない、相談することに罪悪感を抱くなど、私たちの周辺には苦しいことを苦しいと言えない若者たちが多く存在します。しかし、それは若者たちの課題ではありません。社会が小さくなり、つながりは希薄になり、自己責任という負担が大きくなる……。これからの社会を明るく、力強くデザインする若者たちが希望を持っていないのは、きっと社会全体の責任ではないでしょうか?

私たちは3年間の活動で若者たちから多くのことを学びました。また、関わってくださった、関心を寄せてくださった方々の声から、まだまだ希望があることも感じています。若者たちがデザインしたこの取り組みが、今後数多くの分野や活動に広がっていくよう、希望のタネを拡散していきます。

最後になりますが、本活動を支えてくださった日本財団様、多くの勇気と価値を与えてくれたみなさま、そして若者たちに深く感謝いたします。3年間ありがとうございました。

特定非営利活動法人おおい子ども支援ネット
理事長 矢野 茂生

Special
Thanks

3年間、本当にありがとうございました!

令和6年度もCONETを応援していただきありがとうございました。この3年間にいろいろなかたちでかわってくださったみなさまのご紹介です。(個人名を除き敬称略)

日本財団

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

ケアリーバーやこども・若者のみなさま

大分県副知事

大分県福祉保健部 こども・家庭支援課

大分県中央児童相談所・中津児童相談所

大分県社会福祉協議会

大分県児童養護施設協議会

児童養護施設 聖ヨゼフ寮

児童養護施設 清浄園

児童養護施設 山家学園

児童養護施設 鷹巣学園

児童養護施設 光の園

児童養護施設 栄光園

児童養護施設 別府平和園

児童養護施設 森の木

児童養護施設 小百合ホーム

一緒に歩こう会 居場所サロン わかばハウス

大分県弁護士会

大分大学福祉健康科学部社会福祉実践コース

大分合同新聞社

TOSテレビ大分記者

テレビ局アナウンサー

株式会社Cont

株式会社ファイン

昌光山 妙瑞寺(大分市)

GRAVE TOKYO 布施美佳子 様

竹尾真由美 様

大塚あかり 様

一般社団法人若葉会 代表

産前産後ケアサロンtiti

阿南農園(杵築市)

グリーンファーム(杵築市)

日浦農園(杵築市)

フードバンクおおいた

TsunAが〜る

全国児童家庭支援センター協議会 会長

東京都世田谷区児童相談支援課

東京都自立支援コーディネーター協議会

東京都立大学准教授

北海道医療大学助教

早稲田大学社会的養育研究所

株式会社三菱UFJリサーチ&コンサルティング

社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団

社会福祉法人子供の家 児童養護施設 子供の家

CVV(Children's Views & Voices) 副代表

NPO法人Giving Tree ピアカウンセラー/NPO法人IFCA 副理事長

NPO法人バブリング 代表

認定NPO法人かものはしプロジェクト

認定NPO法人ブリッジフォースマイル かたるベースくまもと

認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイス 代表

NPO法人そーさぽ旭川

NPO法人丸亀街づくり研究所 アフターケア事業所わっかつか

NPO法人子どもシェルターモモ アフターケア事業所en

一般社団法人Masterpiece

一般社団法人NOLIMIT旭川

NHK放送局ディレクター、プロデューサー

西日本新聞社

北海道新聞社

多くの方に興味を持っていただきました! ありがとうございます♪♪